

「危険な場所」を体験

東京都大 地域安全マップ作り
付小78人

子どもたちが危険な場所を予測する能力を身につけ、犯罪に巻き込まれるのを未然に防ぐ「地域安全マップ」作り教室（主催・『だいじょうぶ』キャンペーン実行委員会、特別協賛・東急グループ）が13日、世田谷区の東京都大付属小学校（重永睦夫・校長）で開かれ、4年生78人が学んだ。

立正大学の小宮信夫教授が犯罪機会論に基づいて提唱し、普及を図っている。教室では、小宮教授が犯罪に巻き込まれる恐れのある危険な場所のキーワード「入りやすい」「見えにくい」を紹介。ガードレールのない道路やゴミが散乱した公園がなぜ危険か、クイズなどを通して教えた。

授業ののち子どもたちはフィールドワークに出かけた。「危険な場所」「安全な場所」を考え、写真を撮影。マップ作りでは、「この場所がなぜ危険なのか」という理由を書いたコメントを写真に添付し、地図に張り出した。

見学した保護者の荒尾千恵さん(45)は「塾などで帰りが遅くなるなど心配しています」という。黒澤直子さん(43)は「（危険なところを考える）意識づけになったと思います」と語った。

【小野博宣】

立正大の小宮信夫教授（中央）の指導の下、「地域安全マップ」作りのフィールドワークをする東京都大付属小の児童たち

